

資料2 慢性疾患児の自立度確認シート

[記載日] 年 月 日

[患者ID]:

[児童の情報] 年齢: 歳 カ月

社会的属性: 保育所・幼稚園・小学校・中学校 学年 年生 性別: 男・女

疾病名:

[発達遅延の状況] 無し・有(診断名: )・不明 [アセスメントした家族] 母・父・祖母・祖父・その他( )

アセスメント方法

\* 項目ごとにアセスメントし、できている場合はチェックを入れる。チェックが入らなかった場合は、療養支援モデルを参照して介入する。

発達の特徴と課題*	A. 医療従事者とのコミュニケーション		B. 疾病の理解		C. 自己管理(セルフケア)の促進		D. 自己決定能力の育成		E. 児童の社会参加と関連機関との連携	
	児童	保護者	児童	保護者	児童	保護者	児童	保護者	児童	保護者
<b>乳児期・幼児前期</b> ・基本的な生活習慣の獲得をする ・自分の感情や意思を表現する ・道徳性や社会性の基盤が育まれる	A-1 医療従事者と挨拶ができる		B-p1 疾病の病態、治療、およびその見通しを理解している B-p2 児童が慢性疾患にかかったことに対する思いを医療従事者に話している B-p3 成長の段階に合わせて児童自身が疾病について理解することの必要性を理解している		C-c1 年齢や病状に見合った生活に必要な活動を自分で行うことができる	C-p1 児童に必要な療養上の世話を組み込みながら、基本的な生活習慣が獲得できるように支援している C-p2 成長の段階に合わせて、児童が自立して療養生活を送ることの必要性を理解している	D-c1 症状に応じた対処や検査・処置・治療を嫌だと思っても受けることができる	D-p1 医療従事者の説明を児童にわかるように説明して検査や処置を促している D-p2 児童が検査や処置を頑張ったことを褒めている D-p3 成長の段階に合わせて、児童が療養生活の中で自己決定することの必要性を理解している	E-p1 地域における相談支援事業、医療費助成制度、福祉サービス、患者会・家族会等を必要に応じて活用している E-p2 幼稚園・保育所・認定こども園に関する情報を得て、必要に応じて入園準備をしている E-p3 集団生活上、必要なこと(療養行動や医療的ケア、注意事項)を関係者に伝えている	
<b>幼児後期</b>	A-2 医療従事者が患者に語る言葉や話を、関心をもって注意して聞くことができる		B-c1 自分の体、体調、疾病に関心が持てる B-c2 生活の中で自分に必要な療養行動や医療的ケアを知っている	B-p4 疾患や治療、症状について、児童にわかりやすく話している B-p5 生活の中での注意事項について、児童にわかりやすく話している	C-c2 体の不調を訴えることができる C-c3 病状と年齢に見合った基本的な生活習慣が獲得できている	C-p3 児童の自己管理能力を適切に把握している C-p4 児童のやりたい気持ちを支援している C-p5 療養行動や医療的ケアについて児童自身ができるように促す支援をしている	D-c2 いくつかの選択肢の中から方法を選ぶことができる	D-p4 児童にいくつかの選択肢を与え、選ばせている D-p5 児童の選択を尊重している	E-c2 集団生活を楽しく過ごすことができる E-p4 小学校に関する情報を得て、入学準備をしている	
<b>学童前期</b> ・集団や社会のルールを守る態度など、善悪の判断や規範意識の基礎の形成 ・自然や美しいものに感動する心などの育成	A-3 感じたこと、考えたこと、したいこと、してほしいことなどを医療従事者に話すことができる		B-c3 自分の体のどの部分に疾病があるか知っている B-c4 疾病によって、どのような症状がでるか知っている	B-p6 児童の理解に合わせて、児童に疾病やその症状の説明をしている	C-c4 生活上、体調面での注意することを知って、必要な時には援助を受けながら療養行動がとることができる	C-p6 児童ができる療養行動を増やしている C-p7 児童ができる療養行動が増えていることを認め、児童に伝えている	D-c3 自分の考えや意思を伝えることができる D-c4 いくつかの選択肢を自分で考えることができる	D-p6 児童に意思や考えを表現することを促している	E-c4 学校生活の場で療養上、必要な時には援助を求めることができる E-p5 学校の生活の場で必要な療養行動を適切に行うことができるように学校関係者と調整している E-p6 児童の療養生活の自立への支援について学校関係者に理解を求めている E-p7 遠足等の体験活動に参加するための調整をしている	
<b>学童後期</b> ・自己肯定感の育成 ・自他の尊重の意識 ・主体的な責任意識の育成 ・体験活動の実施など ・美社会への興味・関心をもつきっかけづくり	A-4 疾病について医療従事者と話し合うことができる		B-c5 人の体のつくりと働き、疾病の状態について知っている B-c6 疾病について理解し、必要な療養行動について知っている	B-p7 児童が疾病について理解することを促している B-p8 疾病について子どもと話し合っている	C-c5 病状と年齢に見合った規則正しい生活習慣が獲得できている C-c6 必要な療養行動をとることができる	C-p8 児童の病状と年齢に見合った規則正しい生活習慣ができるように支援している C-p9 児童ができる療養行動を見守り支援している	D-c5 必要な療養行動について自分の意思で決めることができる	D-p7 児童の意思決定プロセスを支えている D-p8 生活の中で児童の自己決定とその遵守や責任について児童と話す機会を持っている	E-c6 学校生活の場で体調管理や必要な療養行動は自分で判断して行うことができる E-c7 集団宿泊的行事等に参加できる E-p8 集団宿泊的行事等に参加するための調整をしている E-p9 中学校に関する情報を得て入学準備をしている	
<b>思春期</b> ・人間としての生き方を踏まえ、自らの個性や適性を探究する経験を通して、自己を見つめ、自らの課題と正面から向き合い、自己のあり方を思考 ・社会の一員として他者と協力し、自律した生活を営む力の育成	A-5 学校生活、療養生活、将来への夢などについて医療従事者と話し合うことができる		B-c7 疾病について理解した上で、適切な療養生活について知っている B-c8 疾病の進行の防止に必要な生活様式を知っている	B-p9 疾病の進行の防止に必要な生活様式について、児童の理解の程度を知っていて、必要に応じて助言している	C-c7 適切な療養生活を継続できる C-c8 体調や症状を継続的に把握できる	C-p10 児童が体調や症状を自ら把握し、適切な療養生活を継続的にやっているか見守り、必要に応じて助言している	D-c6 適切な療養生活について自分の意思で決めることができる D-p9 療養生活について児童の自己決定を見守り、必要に応じて助言している	E-c8 慢性疾患にかかっている児童同士の交流の機会に必要に応じて参加できる E-c9 自分の疾病について親しい友人に話すことができる E-c10 自分らしくいられる場所がある	E-p10 慢性疾患にかかっている児童同士の交流の機会に必要に応じて児童に参加することを促している E-p11 高等学校に関する情報を得て、入学準備をしている E-p12 児童と一緒に将来のことについて考えている	

\* 子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題(文科省:子どもの徳育の充実に向けた在り方について(報告)より)